

主 文

本件上告を棄却する。

当審における訴訟費用は被告人の負担とする。

理 由

弁護人大西重喬の上告趣意は判例違反をいうが論旨は結局、原審の認定に副わな
い事実を前提とする主張たるに帰し（第一審判決別表の課税標準価格は、いわゆる
真の価格と認められる。） 挙示の判例はいずれも本件に適切でない。また被告人
の上告趣意は違憲をいうが、その実質は量刑の非難を出でないのであつて、いず
れも刑訴四〇五条の上告理由に当たらない。

また記録を調べても同四一條を適用すべきものとは認められない。

よつて同四一條、三八六条一項三号、一八一條により裁判官全員一致の意見で
主文のとおり決定する。

昭和二八年五月一四日

最高裁判所第一小法廷

裁判長裁判官	入	江	俊	郎
裁判官	真	野		毅
裁判官	斎	藤	悠	輔
裁判官	岩	松	三	郎